

## 6月30日現在、生育量は十分確保されています！ 中干しをしっかりと効かせて、穂肥ができる稲姿に！

### ◎気象と生育概況

6月下旬は、気温がやや高く（過去5年平均 +0.3℃）、日照時間は多く（過去5年平均比 126%）経過した（鶴岡アメダス）。6月30日現在の生育診断圃の生育は、草丈はやや長く、茎数と葉数はやや多く、葉色は並～やや淡くなっており、十分な生育量が確保されている。

管内の圃場においても、全般に茎数・生育量は確保されている圃場が多いとみられる。

表1 生育診断圃の生育（6月30日調査、庄内普及課作況圃）

項目	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(枚)	葉色(SPAD)	
はえぬき (矢馳)	本年値	45.6	676	9.7	39.2
	平年値	43.0	714	9.5	41.6
	平年比・差	106	95	+0.2	-2.4
つや姫 (上清水)	本年値	49.2	559	9.6	40.7
	平年値	43.4	563	9.3	42.4
	平年比・差	113	99	+0.3	-1.7
雪若丸 (長沼)	本年値	43.6	804	9.8	44.1
	指標値	45.0	670	9.6	42.0
	指標比・差	97	120	+0.2	+2.1

※平年値：過去5年平均値

### ◎中干しで無効分けつの抑制、登熟向上に向けて根の健全化を！

下表を参考に、地力や生育量に合わせて中干しの期間を判断する。

まだ中干しを行っていない場合は直ちに中干しを行い、遅くとも穂肥までには中干しを終了させる。中干しの効果を高めるため、作溝を実施する！

表 中干しの程度の目安

地力 低～並 生育量 不足～並	7～10日間を目安に、 小ひびが入る程度
地力 高(復元田含む) 生育量 過多	11～15日間を目安に、大 きなひびが入らない程度 (やや強めの中干し)

小ひびが入る程度、普通の長靴で  
歩ける程度まで中干しを継続する。



中干し終了時の田面の目安

## ◎中干し後の水管理

- 中干しが終了したら、足跡に水がたまる程度まで走り水を行い、間断かんがいに移行する。
- 出穂まで間断かんがいを続ける。  
根の健全化を図りながら、地表付近の根の発達を向上させることができる。  
この根が穂肥を効率的に吸収し、登熟を高める。
- 穂肥施用時は、水尻を閉じて、浅水状態（水深3 cm程度）で散布する。

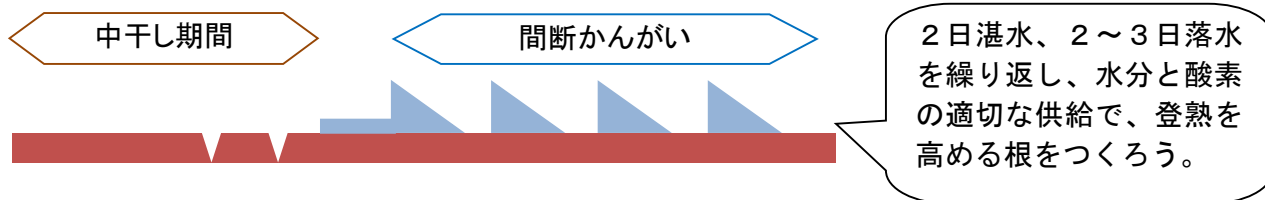


図 中干し後の水管理のイメージ

## ●病害虫対策

### ①斑点米カメムシ類

- 斑点米カメムシ類の発生は平年より「やや多い」予想。  
高温・少雨の条件で発生量が増える傾向にある。
- 畦畔でのカメムシの生息密度を抑えるため、出穂2週間前頃までに雑草の結実前に畦畔や農道等を除草する。
- 周辺のそば作付け予定ほ場や休耕田も耕起を行い、雑草の繁茂を抑える。
- 斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促す水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草も、適切に除草する。
- 斑点米カメムシ対策は地域単位での面的な対策が基本！  
地域一丸となってカメムシ類の適期・適正な防除を徹底する。



### ②いもち病

- 葉いもちの発生は平年より「やや多い」予想。
- 梅雨入り後は、いもち病が感染しやすい条件になるため、常発地や葉色の濃いほ場では特に注意する。
- 育苗箱施用や水面施用で予防剤を使用した圃場でも、油断せずほ場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底する。



葉いもち（作物病害辞典より）



## 熱中症予防強化月間

定期的に水分と休憩を取りましょう



- 作業は涼しい時間帯に
- 定期的に休憩を

- 塩分と水分をこまめに補給
- 作業は涼しい服装で